

令和3年度 学校努力点研究

研究のテーマ

「自分にはなかった！でもその考え方も大切だね！」

～様々な立場と多様な価値観を共有する Visual morality～

I 研究のねらい

本校では、道徳科における対話的な活動や育てたい児童像をより具体化し、ねらいに向かって一貫性のある授業構造の構築、主発問の工夫を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実を目指し、学校努力点に取り組んできた。

今年度は、道徳科の目標の中にも示されている「物事を多面的・多角的に考える」ということに重点を置き、学校研究に取り組んでいく。話し合いの中で出た内容を言葉で伝えるだけでなく、様々な立場や多様な価値観が存在していることを視覚的に示すことで、より明確に理解し、考えを共有することができるのではないかと考える。昨年度までの成果に加え、さらに今年度の重点項目を追究することで、道徳科の本質的なねらいである、物事を多面的・多角的に考え、自己を見つめ、よりよく生きていこうとする児童の育成へと繋げていきたい。

II 研究の進め方

○ 授業の基本構造

① 導入…教材提示の工夫、ICTの活用、補助教材の活用 etc

・ 学習のめあてについて

教師がめあてを提示するのではなく、児童が教材への興味を高めることで、めあてに気づき、考えようとする意欲を高めるようにする。

・ 教材の活用について

国語の読解にならないように留意する。その教材の背景や状況、内容を理解させ、教材を自分ごととして捉えられるようにする。(統計教材、実話教材、物語教材、実際の出来事等)

② 展開…思考ツールの活用、板書の工夫、ロールプレイ、ICTの活用 etc

・ 自分の考えをはじめ、様々な考えがあることを明確にする。

・ 考えを伝え、考えを聴き、自分の考えを深めたり広げたりする。

③ 終末…ワークシートの工夫、補助教材の活用、板書の工夫 etc

・ 振り返りをし、自分の考えがどのように変わったのか、それはなぜか考える。

授業の基本構造～Visual morality～

